

よなばるまじく

(タイワンダイ)

～生活史の研究～



① 沖縄の赤い鯛と言えば！！

沖縄には、赤い鯛が3種生息しています。もっとも有名なマダイは、沖縄海域では尖閣諸島や陸棚周辺に分布しているため、天然ものを目にすることは稀だと思います。一方、“連子鯛”や“ふかやーまじく”と呼ばれるキビレアカレンコは、沖釣り（深場）のターゲットとして人気があります。

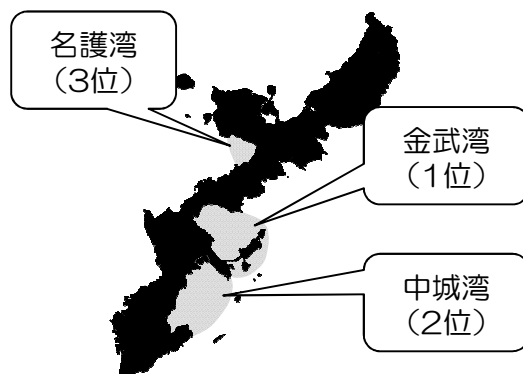


市場に水揚げされたタイワンダイ

これら2種とは対照的に、タイワンダイは知名度こそ低いものの、そのエレガントなフォルムから、通の間では“よなばるまじく”の名称で親しまれています。県内では、刺身、塩焼き、バター焼き等で食されていますが、昆布ヅにして握りにするのも美味です。秋から冬（10～12月頃）にかけて、一番、脂がのります。

② 与那原に多いの？

タイワンダイは、方言名に“よなばる”という地名が入っていますが、本当に与那原地先に多いのでしょうか？ これまでの市場調査の結果から、本種は金武湾で最も多く出現し、次いで中城湾、名護湾の順となりました。なお、調査期間中、先島諸島からの記録はありませんでした。

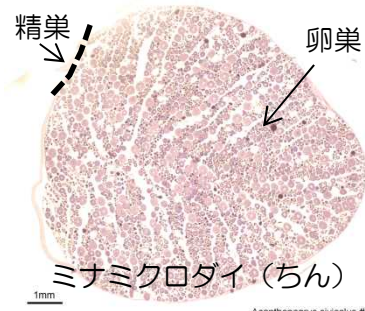


③ 産卵や性の秘密とは？

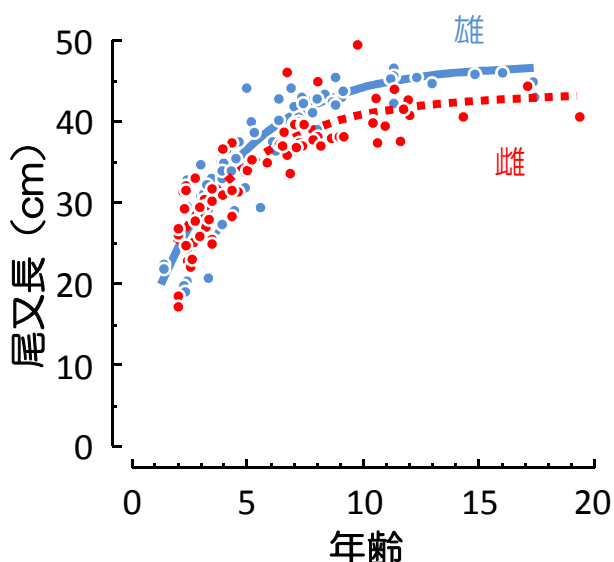
タイワンダイの生殖腺（卵巣や精巣）を詳しく調べた結果、1～5月をピークとする11～6月であることがわかりました。本土のマダイが桜が咲く時期に旬を迎えることから桜鯛と呼ばれているのに対し、タイワンダイは桜が咲く頃に本格的な産卵を迎えることとなりますので、別の意味で桜鯛と呼べますね！

タイ科魚類のうち、体色が黒い鯛は性転換を行う種が多く、反対に赤い鯛は少ないと言われています。では赤い鯛のタイワンダイではどうでしょうか？

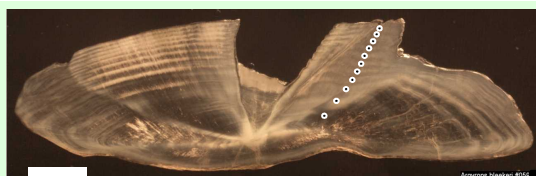
ちん（ミナミクロダイ）では、右の写真の様に精巣と卵巣が隣接する生殖腺をもち、雄から雌へ性が変わることが知られていますが、タイワンダイでは、その痕跡は確認されず、機能的には雌雄異体であると考えられました。



④ 何歳まで生きるのか？



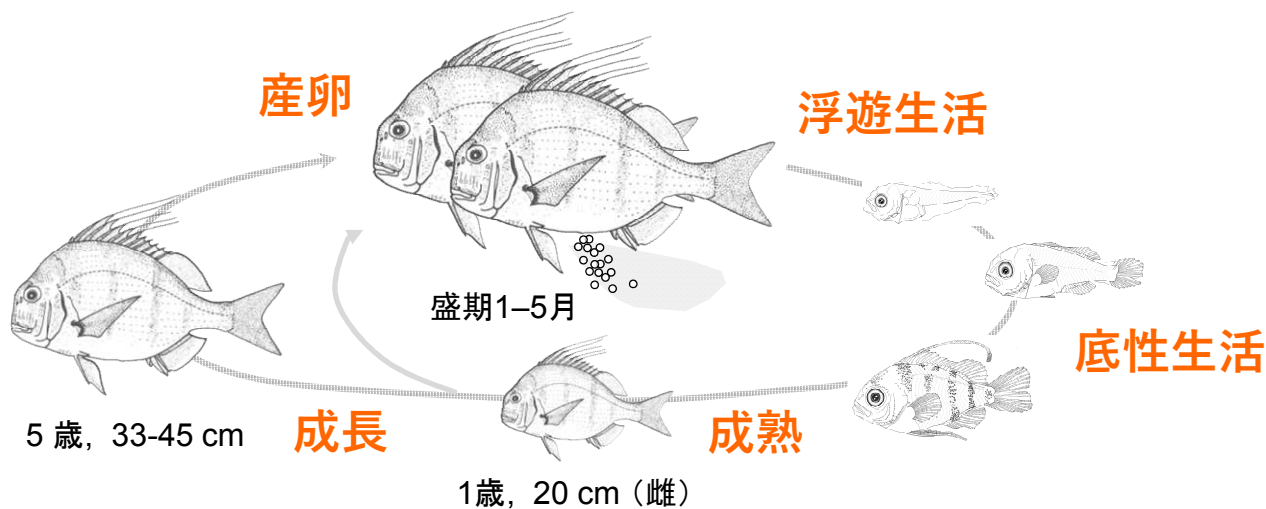
頭部にある耳石を調べることで、成長や寿命を知ることができます。タイワンダイの耳石を詳しく調べた結果、成長は雌雄ともに5歳まで早く、以降緩やかとなりました。雄が雌よりも大きくなり、最高齢は雌19歳、雄17歳でした。



タイワンダイの耳石切片
(輪紋を数えることで年齢がわかる)

⑤ “よなばるまじく” の生活史

これまで見てきたように、本種は内湾域で産卵し、孵化した仔魚は、浮遊生活を送ります。成長とともに底性生活へ移行し、雌では約1年、20cmで成熟に達します。この頃から、内湾域では刺網、延縄、一本釣り等により漁獲され始め、スナガニ類など甲殻類を食べながら成長を続け、約20年の一生を全うします。



内湾域は、陸域から流入する負荷を受けやすい環境です。将来にわたって“よなばるまじく”を利用し続けていくためにも、私たちは本種の生態を理解した上で、節度をもった漁獲と内湾環境の保全に努めていく必要があります。

※成魚は林・萩原 (2013) より略写, 仔稚魚は上原原図

⑥ 参考資料・文献

- ・Uehara M, Ohta I, Ebisawa A (2017) Life history traits of the pagrinae sparid *Argyrops bleekeri* inhabiting bays in Okinawa Island, Ryukyu Archipelago, southwestern Japan. *Regional Studies in Marine Science* 10: 97-106
- ・上原匡人・立原一憲・太田 格・海老沢明彦 (2017) 沖縄島中城湾におけるタイ科4種の仔稚魚の出現様式. 沖縄県水産海洋技術センター事業報告書 77: 印刷中
- ・林 公義・萩原清司 (2013) タイ科. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, 東海大学出版会, 955-959
- ・赤崎正人 (1962) タイ型魚類の研究—形態・系統・分類および生態. 京都大学みさき臨海研究所特別報告 1: 1-368

執筆担当者：上原匡人（沖縄県水産海洋技術センター）